

委員会調査(研修)報告書

NO.

平成 29年 7月 24日

胎内市議会議長

森田幸衛様

(報告者) まちづくり常任委員会

委員長 丸山 孝博

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 平成 29年 7月 14日 至 平成 29年 7月 14日 泊 日 (日間)	調査・研修 場所	①地域おこし協力隊 (にこ楽胎内) ②奥胎内ダム (工事現場)
調査・研修 事項	①地域おこし協力隊の活動内容と受け入れ集落の区長との意見交換 地域おこし協力隊員3名と区長3名 ②奥胎内ダム工事の進捗状況と役割などについて		
調査・研修 出席者(参加者)	委員・丸山孝博、渡辺秀敏、桐生清太郎、森田幸衛、薄田智、佐藤武志 天木義人、坂上清一、森本将司 副議長・高橋政実 館議会事務局係長 今井主任 12名 (総合政策課長、係長、主任)		
相手方(対応者)	新潟県新発田地域振興局 地域整備部奥胎内分所 職員2名		

調査の結果または概要

①地域おこし協力隊の活動内容と受け入れ集落の区長との意見交換

市が昨年度 2 名の地域おこし協力隊員を初めて誘致し、坂井集落と鉾江集落でそれぞれ一年間活動してきた報告及び、今年度から鼓岡集落で活動することになった 1 名の活動について、それぞれスライドを用いて説明を受けた。

3 名とも活動熱心で、地域に根差すための努力は高く評価できる。過疎地域の条件のなかで、地域ブランドや地場産地の開発・販売から夏祭りの企画など、地域のマンネリを打破する影響力をもっている。

受け入れ区長の期待も大きく、あたたかく見守りながらも、よそ者・若者の発想で、地域活性化を図りそのため共に取り組む姿勢が語られた。ただ 1 名が 8 月をもって退職することになり関係地域の区長は戸惑っていた。

②奥胎内ダムの進捗状況と役割などについて

これは、新潟県の事業ではあるが来年度竣工するというので工事現場を見学することを目的としたものである。

はじめに奥胎内ヒュッテで、スライドを用いた説明を受け質疑ののちマイクロバスで現場に向かった。

洪水調節を主たる目的に、平成 14 年度に着工し当初の計画より期間・予算が増え、30 年度によりやく完成予定であり、約 350 億円の大型公共事業である。現場ではまだ、約 100 人が働いており最終段階に入った工事に携わっていた。

調査の所見・感想

①地域おこし協力隊の活動内容と受け入れ集落の区長との意見交換

協力隊員 3 名と受け入れ集落の 3 区長との意見交換会は、直接話を聞くことで具体的な活動状況や受け入れたことによる地域住民の意識の変化、活性化への期待や協力隊員の思いや悩みなどを率直に聞く機会になった。また議員からの提案などもできて大変有意義であった。

また、来年度以降の協力隊員の誘致も含め、これからもこの事業を注視するとともに、活躍を期待したい。

②奥胎内ダムの進捗状況と役割などについて

完成間近ということもあり、完成後の利活用などに質疑が集中した感じがある。現場でのダムの仕組みや自然との調和などの説明は、着工後幾度となく説明を受けているので、特筆すべき所見はない。